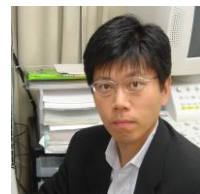




これまでの医師人生を振り返って ～③循環器専門医を目指して～

医療法人社団 有晃会 理事長 船本 全信



NTT 西日本大阪病院では、気管支喘息や慢性肝炎・肝硬変、糖尿病、高血圧、肺炎、脳梗塞・脳出血、胃癌や大腸癌・肝癌・肺癌などの悪性疾患とその看取りといった一般内科医としての2年間の研修を行いました。当時の臨床研修システムでは、卒業後4年目には自分の将来を見据えたより専門性の高い病院に配属希望を出し(一般病院で若手医師が次々と代わるのは、それも一つの原因です)、その配属が自分の専門性を決定することになります。それまでの3年間で呼吸器内科・消化器内科・リウマチ疾患など色々な疾患に携わりましたが、狭心症や心筋梗塞に対する心臓カテーテルを用いた血管内治療に興味を持った私は、週に1回半年間ですが大阪府立成人病センターへ出張研修に行きました。実日数にして20日間程でしたが、濃密な勉強をさせていただきました。

一般的な光景としてこのカテーテル検査室には、基本的に患者以外にメイン術者1人・アシスタント1人・外回りの看護師1人・物品用意係1人の計4人で行っていました。後は放射線技師が外でサポートしているだけです。検査室にはモニターから流れる心拍数の音がリズムカルにこだまします。BGMとして音楽が流れている場合もありますが、それは患者のリラックス目的であり、医療スタッフたちはモニターの音(心臓が動いている音)をしっかりと確認するためあまり音楽は聴いていません。実は心臓の血管内治療は、非常にリスクが高く繊細なテクニックを要求される治療法で、「手で」ワイヤーやカテーテルを精密に操作し、その「1メートル以上先にある」心臓冠動脈の血管径3~4ミリの中を探っていきます。狭窄部位に至ってはゼロコンマ何ミリとなっているため、注意深くガイドワイヤーを通過させ拡張用バルーンで狭窄部位を拡張します。その拡張している時間は、いわば人工的に血流を遮断し心筋梗塞を作った状態にあり、患者は胸痛を覚え不整脈が出やすい環境にあります。そのためモニターからの心拍チェックは重要なのです。実際、急性心筋梗塞で搬送されてきた患者が、拡張バルーンで上げ血流を改善した直後に致死的不整脈を発症し、電気ショックを必要とすることも何度か経験しました。

循環器の疾患は、狭心症や心筋梗塞・不整脈・心不全など色々ありますが、初期治療の重要性がはっきりと感じ取れる疾患群です。息も絶え絶えで救急搬送されてきても、初期治療が的を得ていれば本当に元気になって大抵は自分の足で歩いて退院されます。当然の事ながら他領域の疾患も初期治療が大切ですが、外科的手技にも懂っていた私はペースメーカーの植込みも出来る循環器領域を自分の専門とするために、当時心臓カテーテル治療のスペシャリストがいた大阪府立成人病センター循環器内科の門を叩きました。結局3年間カテーテル治療にどっぷりと浸かりましたが、やればやる程奥が深く非常に興味深い治療法でした。当然、非常に高度で繊細な手技を用いて治療を行うため、不測の事態も起こりえます。動脈硬化の血管を拡張バルーンで拡張したり、ステントと言う金属のチューブを埋め込んだり、偏心性の動脈硬化病変を削り取るアテレクトミーや、硬い石灰化病変をドリルのように突き進むロータブレーター等様々な治療法がありましたが、色々な悪条件が重なると冠動脈破裂を来し緊急開胸手術となることもありました。しかしその時々において医師(内科・外科問わず、何処からともなく(!)登場します)・看護師・放射線技師が素早く連携を取りながら、適切な処置を行いつつ手術室に運び事なきを得て来ました。この病院では最先端の治療を行っていましたが、結局のところ「いざ、何か」というときには「組織の持つ総合力」(専門性・団結力・調整力・スタッフ個々の能力・情報伝達など)がその後を大きく左右する規定因子であることを強く認識しました。

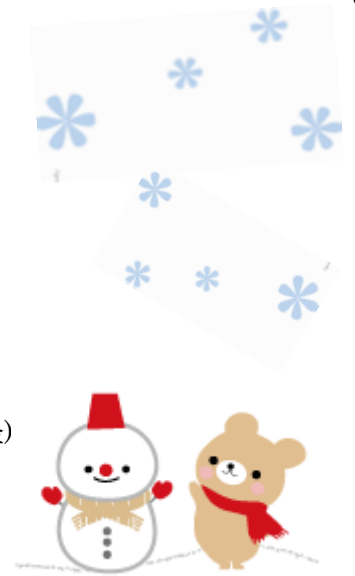
現在、「医療法人社団 有晃会」の理事長として医療と介護のスタッフを率っていますが、改めてその重要性を実感しており、より皆さんに対する「総合力」を上げるために今後さらに努力して行きたいと思っています。(次号に続く)

12月の予定

エコー検査	井上 Dr.	3(土)・17(土)
	杉山 Dr.	2(金)・9(金)・16(金)
専門外来(血液・消化器)	谷口 Dr.	14(水)・28(水)
専門外来(神経)	藤本 Dr.	3(土)・17(土)
食事相談	宮本管理栄養士	12(月)・26(月)

1月の予定

エコー検査	井上 Dr.	7(土)・14(土)
	杉山 Dr.	6(金)・13(金)・20(金)・27(金)
専門外来(血液・消化器)	谷口 Dr.	11(水)・25(水)
専門外来(神経)	藤本 Dr.	7(土)・21(土)
食事相談	宮本管理栄養士	16(月)・23(月)



ふなもとクリニックと共に

看護師の
玉谷です

皆様ご存知のとおり、ふなもとクリニックが7月で10周年を迎えました。

それに少し遅れて、わたくしも11月20日で在勤10年目を迎えることができました。

思い出しますと、二男二女をもうけ家事・育児にと十数年が過ぎた頃、わたしにもう一度看護の道で働きたいという思いが湧いてきたのです。少し早いかと思いましたが、末っ子が幼稚園年長の時、ふなもとクリニックの募集広告が目にとまり、ダメもとで面接を受けたところ、採用されました。

採血・注射等も久しぶりで、最初は緊張と不安で胸が張り裂けそうでしたが、院長・スタッフに支えられ又、患者様の温かいお言葉・気持ちに支えられ今日に至っております。

また、2004年4月より電子カルテの導入により全てにおいてパソコンを触ることになったときは、家で一度も使ったことがなくどうしようと悩みながらも、何とか覚えて頑張ろうと必死でした。今は最低限度のことは何とかできるようになりました。

今年で50歳になりましたから、いつまで現役で働けるのかわかりませんが、一年・一年自分と契約し、「よしっ！また来年も頑張るぞっ！」と思い働いております。

どうぞこれからもよろしくお願いいたします！



年末年始 休診のお知らせ

ご不便おかけしますが、以下の期間は休診と致します。

12月28日(水)の午後(午前の診察は行います)～1月3日(火)

定期薬の処方を受けておられる方はお気をつけください。

